

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 6 年 6 月 6 日	
山梨県知事	
長崎 幸太郎 殿	
提出者	
住 所	山梨県南アルプス市上今諏訪843
氏 名	富士生コンクリート株式会社
代表取締役 中込 通雄	
電話番号	0 5 5 - 2 8 3 - 1 7 5 5
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	富士生コンクリート株式会社
事業場の所在地	山梨県南アルプス市上今諏訪843
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	窯業・土石製品製造業
② 事業の規模	令和5年度 製造出荷額 3億7千万円
③ 従業員数	15人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	_____
	排出量	2,681.84 t	_____ t
	（これまでに実施した取組） 顧客との綿密な打ち合わせをして適正な出荷を行い戻りコンクリートの減少化を図る。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	_____
	排出量	1,500 t	_____ t
	（今後実施する予定の取組） ・顧客との綿密な打ち合わせをして適正な出荷を行い戻りコンクリートの減少直化を図る。 ・少量出荷の単位販売を行う。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃棄物置場に種類を明示し、異なる種類の廃棄物の混在を防止する。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 従業員に産業廃棄物の分別を高める為の教育を行う。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	_____
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	_____
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	_____
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	_____
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	_____
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	_____
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	_____
	全処理委託量	2,681.84 t	_____ t
	優良認定処理業者への処理委託量	_____ t	_____ t
	再生利用業者への処理委託量	2,681.84 t	_____ t
	認定熱回収業者への処理委託量	_____ t	_____ t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	_____ t	_____ t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物の収集運搬許可及び有効期限の確認 産業廃棄物の運搬業者及び処理業者との受託契約を締結		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	全 処 理 委 託 量	1,500 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1,500 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物（特別管理産業廃棄物を除く）処理計画書

富士生コンクリート株式会社

1. 会社概要

(1) 会社名

富士生コンクリート株式会社
山梨県南アルプス市上今諏訪 843

(2) 資本金

1,000 万円

(3) 従業員数

15 人

(4) 事業内容

生コンクリート製造・販売業

(5) 生コンクリート出荷量

令和 5 年度 約 15,324 m³

(6) 製造及び産業廃棄物フローシート

別紙図 1.参照

(7) 産業廃棄物の処理に係る管理体制図

別紙図 2.参照

(8) 工場内配置図

別紙図 3.参照

2. 計画期間

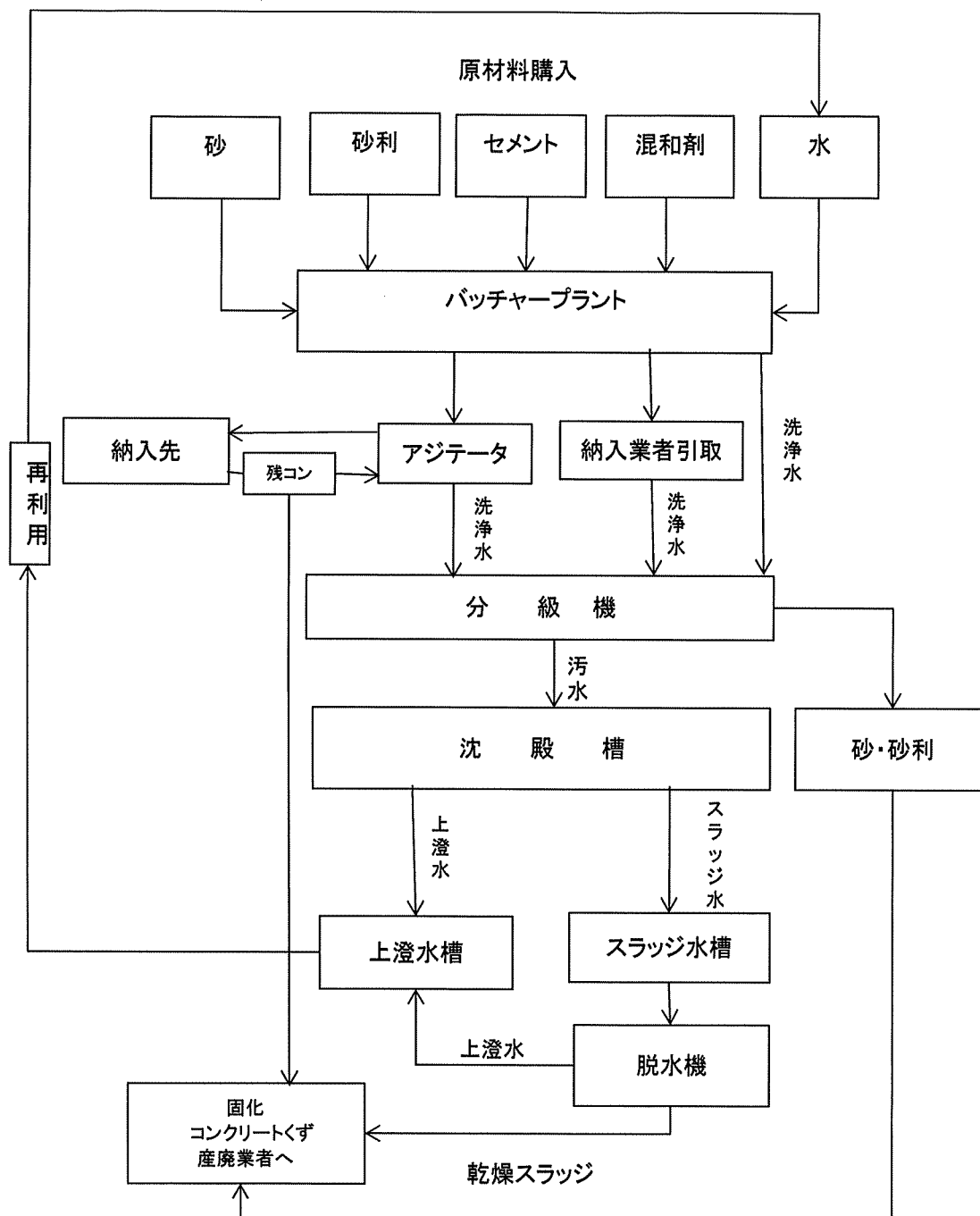
2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

3. 産業廃棄物削減目標

当工場より排出される産業廃棄物の殆どが購入者による残コンであります。
日頃より購入者との綿密な打ち合わせをしながら残コン減少に努めていますが、生コンクリートの使い切り量の注文が難しく残コン量も各購入者ごと
違い日々変動している事が要因であります。今後の取り組みと致しましては
打ち合わせの強化及び呼びかけアジテータ車のドラム内洗浄の回数を減らし
減量に努めます。

別紙図1.

産業廃棄物の一連の作業工程

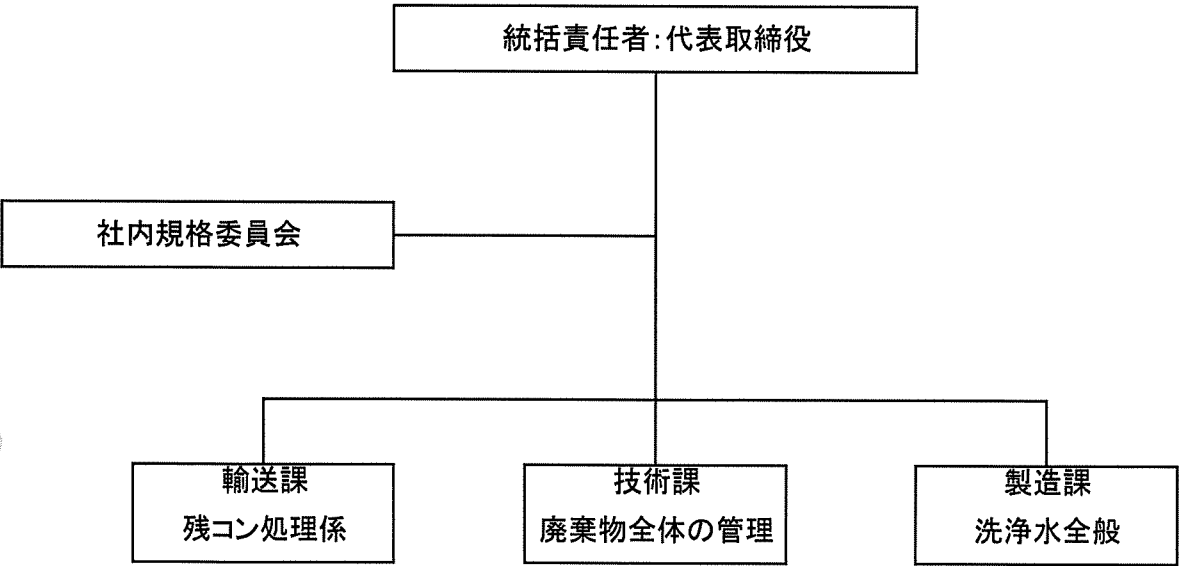


製造フローシート

別紙図2.

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項
責任者及び管理体制

統括責任者	所属: 富士生コンクリート 職: 代表取締役	
廃棄物担当	所属: 製造課所	職: 製造課長
	所属: 技術課	職: 技術課長
公害防止有資格者	水質	2名
	一般粉塵	3名
廃棄物管理者	有資格者・工場長・技術課長	



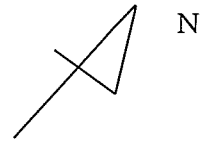
富士生コンクリート 組織図

別紙図 3.

四ヶ村堰へ排水

工場配置図

社員駐車場



中和装置

雨水槽

廃材
置場

G2005
オープン
ヤード

オイル
倉庫

ピット

倉庫 部品庫

屋根付
修理 作業場

休憩室

トイレ

2F、書庫、会議室

会議室

書庫

小会議室

階段

1F、事務所、応接室

出入り口

供試体

試験室

応接室

事務所

操作盤

乾燥機

ふるい分け

試験器具

カウンター

机

出荷管理装置

品管PC

循環器

養生水槽

圧耐試験機

給湯室

階段

コピー機

書棚

道路

G 3	G 1	G 2	S 2	S 1
4020	2005	2005	砂	砕砂
190 m³	230 m³	230 m³	230 m³	230 m³

引出ベルコン

地下
水槽

全上屋根付骨材置き場

S 2
オープン
ヤード

GS
(軽油)

S 1
オープン
ヤード

脱水機

沈殿槽

上澄水槽

スラッジ
水槽

傾斜ベルコン

砂利

砂

ベルコン

原水槽

分給機
トロンメル

洗車場

セメントサイロ N

セメントサイロ BB, H

BP

プロア
コンプレッサー

配電盤

SF500S

ボソリス 78S

フローリック S

予備

出入り口